

JCI JAPAN TOYP 2020 エントリーシート

氏名*	中村 茉由
フリガナ*	ナカムラ マユ
所属団体*	片品村地域おこし研究会
活動内容* (200 文字以内)	尾瀬の郷 片品村の地域おこし協力隊として移住し、卒隊後定住を決め、起業を通して定着した経験を通して、村内外の有志と共に「移住・定住・定着」の環境づくりをテーマにした片品村地域おこし研究会を立ち上げました。 特に「農山村(グリーンエリア)で創る幸せな暮らし」をテーマに20～30代女性が暮らしやすい地域を目指すことで地域の持続可能性を高める取り組みを続けています。
活動カテゴリー*	<input checked="" type="checkbox"/> ビジネス・経済・起業 <input type="checkbox"/> 学術 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 倫理・環境 <input type="checkbox"/> 青少年育成・世界平和・人権 <input type="checkbox"/> 人道支援・ボランティア <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 政治・法律 <input type="checkbox"/> 医療革新 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> その他(地域おこし、移住・定住・定着)
紹介者氏名 紹介者がいる方は記入	遠西 正
紹介者所属団体	N3 coworking & cafe
JCI JAPAN TOYP を どこで知りましたか?*	青年会議所 会員 からの推薦(一般社団法人沼田青年会議所)・ホームページ・ フェイスブック ・チラシ・メディア()・その他()
紹介理由 (200 文字以内)	私たちの N3 coworking & café のスタートアップ、特に「食の地域おこし」に関してご協力いただいています。このお店は群馬県北部の沼田市の中心市街地にあり様々な観点から地域を活性化する人たちの関係案内所的な役割を担っております。TOYPについて沼田JCのメンバーの方からチラシをいただいております、中村さんとコラボする中で地域おこしの実績や挑戦する姿勢もさることながらその人柄に魅力があり、紹介させていただきました。

顔写真*



経歴
(200 文字以内)

茨城県日立市出身・群馬県片品村在住
都留文科大学 卒
2015年片品村地域おこし協力隊着任（～18年）
2018年農と食で地域活性化プロジェクト「北毛茶屋」で起業
片品村地域おこし研究会 発足
2019年上毛新聞 オピニオン21委員
尾瀬高校 学校評議員
講演会
2019年茨城県大子町男女共同参画セミナー
第24回全国小さくても輝く自治体フォーラム in 群馬県南牧村
提言
2019年総務大臣と地域おこし協力隊関係者との意見交換会

活動PR1*
(200 文字以内)

村ガールプロジェクト～移住・定住・定着の環境づくり～
研究会を通して地元住民と移住者が一体となり学び交流する場づくりを行っています。その中で消滅可能性のある自治体の傾向として生産年齢、特に20～30代の女性が暮らしにくい環境であることが分かりました。それを解消していくために地域住民と有識者が出会い、意見を交わし、具体的なプロジェクトとして動き出せるワンストップで持続可能な環境づくりを進めています。

<p>活動PR2* (200文字以内)</p>	<p>「農」と「食」で地域活性化 消滅可能性のある自治体に暮らしてみると自然や水環境に恵まれ動植物の育成に適した健康的な地域だとわかります。その土地で生産者の想いを聞いて食べる味は感動的に美味しく、思い出が残ります。そこで、「農」と「食」の地域活性化プロジェクト「北毛茶屋」をスタート。その拠点を中心に地域活性化のアドバイスや提言を行うと共に移動販売車を使い様々な地域に出張しネットワークを広げています。</p>
<p>活動PR3 (200文字以内)</p>	<p>移住者の若い女性からの叫び 村社会であっても勇気を持ち提言・行動することが大切です。その姿を見てくださった方からご推薦をいただき上毛新聞オピニオン21委員、尾瀬高校学校評議員も務めさせていただくこともできました。2019年秋には関東で唯一お声がけいただき総務省の石田真敏大臣(当時)との地域おこし協力隊関係の意見交換会への参加や茨城県の大子町で単独の講演会をさせていただく機会などにも恵まれました。</p>
<p>SDGsのゴールとターゲット番号及び結びつきの説明</p>	<p>番号の記入(11 住み続けられるまちづくりを) (11. a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。) 説明(日本の大都市を支える主たる水源域の地域おこし人財の育成および移住・定住・定着支援に関わる取り組みを行う必要がある。)</p> <p>番号の記入(12 つくる責任 つかう責任) (12. 8 2030年までに、人々があらゆる場所において、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。) 説明(都市の野菜工場でつくるジェネリックな野菜が増える中で、上流域で育まれた人の体内環境をきれいに保つ美味しい農作物の適正な流通を通して持続可能な水源管理に繋げていく必要があります。)</p>

■質問事項(全200文字以内厳守)

<p>質問1* (200文字以内)</p>	<p>活動を始めたきっかけを教えてください 全国の都市部から地域おこし協力隊制度を使い片品村に移住してきた7名中で残ったのが私ひとりでした。現在、在任中の隊員は後2名いますが転出予定です。私は第二の故郷片品村に定着した唯一の当事者として実感を持ってこの地域の課題に向き合い、自分たちの暮らしやすい地域を自分たちで創る人たちのネットワークをつくり全国各地で同じ思いをもつ方々の支えになっていきたいと考えています。</p>
<p>質問2* (200文字以内)</p>	<p>この活動を通してどのような未来を実現したいと思っていますか(ビジョン) 日本の農山村で自分らしく、生き生き暮らす人を増やすことで持続可能な地域を目指します。その中で、自分の経験を活かして20~30代女性が暮らしやすい環境づくりを行い、地域と営みの質を高めていきたいと考えています。そのためにまず「移住・定住・定着」のぐんまモデルを目指して取り組みを続けたいと考えています。</p>
<p>質問3* (200文字以内)</p>	<p>未来を実現するために今行っている具体的な活動をお答えください(アクション) 群馬県を中心に全国の地域おこし協力隊を中心に移住して地域で自分らしく暮らし、その地域の活性化に取り組みたいと考える人たちに必要な情報、つながりを提供し、自力を育みながら発展できる機会づくりなどのノウハウ提供を地域おこし研究会をとおして実施しています。</p>
<p>質問4* (200文字以内)</p>	<p>あなたの行っている活動は社会にどのような影響を与えていますか(インパクト) 地域おこし人財が一人消滅可能性のある自治体に定着するインパクトはとて大きいと感じています。なぜならその地域は国民のライフラインともいえる水源のある地域であるからです。全国には5000名を超</p>

	える協力隊員がいます。その方々が地域を守るだけでなく多様な資源を発展的に活用・運用ができる能力と繋がりを持つ人が根づくことが日本の暮らしを持続可能なものにできることです。
質問5 (200文字以内)	あなたの考えるリーダーシップをお答えください 女性ならではの視点を活かし、地域のあるべき環境づくりを行いながらそのための提言やビジョンを示すことができる人財であることが大切だと考えます。

■ 推薦者情報 推薦者がいる場合のみ記入

ブロック名*	群馬ブロック協議会
青年会議所名*	一般社団法人 沼田青年会議所
担当役職*	理事
担当者氏名*	六本木 勇治
フリガナ*	ロツポンギ ユウジ
推薦理由* (200文字以内)	滅可能性地域の未来を変えるためには若い女性を起点に地域や社会を見直し、一つ一つスピード感を持って見える化や言語化していく必要があります。それは封建的な社会であればあるほど必要だと感じます。勇気をもって日本社会が直面している「見えない壁」に挑戦できる女性は非常に稀有です。この様な方が舞台に提言し、壁を突破できるようにすることがJCの使命だと思い推薦しました。